

学校法人 プール学院
理事長 杉山修一 様

2015年度

プール学院中学校・高等学校 学校関係者評価報告

2016年9月10日

プール学院学校関係者評価委員

議長 山下なほみ (2016年度 PTA 会長)

書記 奥井浩子 (プール学院後援会会長)

委員 倉戸直実 (プール学院評議員)

東條真寿美 (プール学院後援会副会長)

藤田知克子 (プール学院後援会副会長)

青木多喜子 (2016年度 PTA 副会長)

森賀佐和子 (2016年度 PTA 副会長)

I 委員会の経緯

- 6月23日 第1回委員会 学校より2015年度の学校関係者評価委員の委嘱を受けた。内海校長、藤本中学校教頭、加藤事務局長の同席のもと、2015年度アンケート結果並びに自己評価に関する資料①めざす学校像②中間目標③本年度取組内容及び自己評価が配付された。
- その後、評価委員だけでスケジュールと分析方法を話し合った。今年度は評価方法を変えることになった。好感度指数に着目して行うこととした。
- 7月26日 第2回委員会 担当ごとの宿題資料を読んでの意見交換を行った。出た意見と分析結果を合わせて書記がまとめて次回に仮報告書を作成し、それを元に意見交換をして完成に近づけることとした。
- 8月30日 第3回委員会 出来上がった2015年度学校関係者評価報告（案）を見ながら、意見交換をした。
- 9月10日 第4回委員会 最終確認の上、内海伸晃校長へ評価委員から手渡した。

II 2015年度の学校自己評価を受けて

・2015年度の評価方法

2015年度の学校評価における「めざす学校像」は以下である。

めざす学校像

プール学院のミッションは「キリスト教の精神を根底とする霊的人格教育」をもって、社会に奉仕することである。ミッションステートメントに基づき、今年度の目指す人間像を「生徒一人ひとりが輝き、他者を思いやり、自立し、生きる力をつけ、探究できる人」とする。

そのなかで、学校が最も重きをおいているのが、「探究できる人に生徒を育てたい。」という点である。

そこに軸足をおいて、日々の学校生活・指導を1年間行ってきた。それが、生徒・保護者にどのように受け止められているかを知るために生徒好感度指数を基に、今年度は評価を行った。好感度指数とは、アンケート結果の①よくあてはまると②ややあてはまるの%を合計したものである。

ここ数年経過をみるために設問は変えずにアンケートを実施している。このことから、昨年度（2014年度）と今年度（2015年度）との生徒好感度指数の差に着目をした。

昨年度（2014年度）の評価より、マイナスポイントの評価とプラスポイントの評価を取り上げ、なぜ、マイナスになったのか、またプラスになったのかをそれぞれ理由を分析することにより今後の課題と進むべき方向が示されると考えた。分析上必要な場合、保護者好感度指数、教員好感度指数も参考とした。

なお、分析・評価を行うために必要と考えられる資料（2015年度 学校関係資料 PDCAについて）を学校側より、開示可能な限りご提供いただき、ご協力頂いた。資料は、一部抜粋のため、評価結果に十分反映されていないことはご了承いただきたい。

III 評価内容

1 はじめに

今回で学校評価は7回目となった。従来通り、生徒、保護者、教員に対して行われ

2015年度保護者アンケート回収率は

中学1年	31 / 58	53.4%
中学2年	32 / 74	43.2%
中学3年	35 / 81	43.2%
高校1年	99 / 219	45.2%
高校2年	88 / 219	40.2%
高校3年	90 / 258	34.9%
総計	375 / 909	41.3%

となった。

尚、生徒・教員アンケートは校内で実施したので回収率は100%であった。

2 学校関係者評価結果

・2015年度 生徒好感度指数が2014年度よりマイナスポイントの設問

設問12	高校	-6.7	クラブ活動について
設問13	高校	-1.3	クラブ活動について
設問17	中学	-7.9	将来の進路について
設問22	中学	-10.6	国語の授業の理解度（授業の理解度）

・2015年度 生徒好感度指数が2014年度よりプラスポイントの設問

設問2	中学	+6.8	礼拝の充実
設問19	中学	+9.1	先生への信頼度
設問20	中学	+8.1	先生への信頼度
設問21	中学	+22.5	先生への信頼度
設問31	中学	+20.4	個人情報保護について

(1) マイナスポイントについて 表中の（ ）内の数字は2014年度の%である。

問12 現在、いずれかの部活動に参加している。

	高1	高2	高3	高校全体	昨年度よりの増減
①よくあてはまる	50.7	49.3	18.1	38.4	-3.8 (42.2)
②ややあてはまる	2.3	4.6	12.4	6.7	-2.9 (9.6)
③あまり当てはまらない	2.3	3.2	8.0	4.7	-1.2 (5.9)
④全くあてはまらない	44.7	42.9	61.4	50.2	+7.9 (42.3)

上記の表より①+②の好感度指数は、45.1%で2014年度より**-6.7%**である。

設問13 本校のクラブ活動は、活発に行われている。

	高1	高2	高3	高校全体	昨年度よりの増減
①よくあてはまる	28.6	31.7	22.6	27.4	-3.0 (30.4)
②ややあてはまる	42.9	40.8	40.5	41.3	+1.7 (39.6)
③あまり当てはまらない	19.4	19.7	23.0	20.8	±0 (20.8)
④全くあてはまらない	9.2	7.8	13.9	10.5	+1.7 (9.1)

上記の表より①+②の好感度指数は、68.7%で2014年度より**-1.3%**である。

この設問は、いずれもクラブ活動について尋ねている。

クラブ活動は、コースによって授業の終わり時間や補習などで加入できない生徒もいる。また、顧問の先生が必ずしも担当クラブの指導に長けているわけではない。期待を持って入部をしても続かない生徒も少なくない。高Ⅲは、受験で引退しているので、設問にそぐわないと思われる。次年度からは、設問対象外にしてはどうだろうか。引退した高Ⅲを除いて結果を見ても好感度は2極化している。

カリキュラム上クラブ活動の時間が確保できない、指導者の確保も出来ないのであれば学校でクラブ活動をする必要があるのかどうか。クラブ活動について大きく考える時期に来ているのではないだろうか。

クラブ活動では、仲間とのコミュニケーション、上下関係からマナーや言葉使いも学べる機会でもあり多感な中高時代には必要と思われる。学校がどの方向で進むのか、見えてこないのが残念である。

設問17 HR、講演、進路関係の行事、体験学習などが将来の職業を考える機会となっている。

	中1	中2	中3	中学全体	昨年度よりの増減
①よくあてはまる	15.8	16.9	33.8	22.9	-7.5 (30.4)
②ややあてはまる	29.8	29.6	50.6	37.6	-0.4 (38.0)
③あまり当てはまらない	43.9	35.2	14.3	29.8	+5.7 (24.1)
④全くあてはまらない	10.5	18.3	1.3	9.8	+2.3 (7.5)

上記の表より①+②の好感度指数は、60.5%で2014年度より-7.9%である。

教員資料より、進路HRは過去2年間、過年度の予定を申し送りされており、進路係が中心となり計画をたてており、大きな流れはほぼ定着している。

また、学年それぞれでテーマを決めてそれに沿う形で実施している。

しかし、なぜマイナスとなったのか。

どの取り組みも、「行った」「見た」「知った」の3つの「た」で終わってしまっている。これでは、折角の経験が、自分の将来には繋がるとは生徒は考えにくい。

コース、カリキュラムで時間数に制限はあるが、事前・事後学習をしっかりと行い、生徒も「受け身」ではなく「積極的な関わり」を意識させて頂きたい。中1生徒に進路、将来の職業と言ってもピンとこないのは当然であるが、中3になると好感度は84.4%になっている。学年と成長に応じた、プログラムが必要と思われる。

設問22 国語の授業の内容は理解できている。

	中1	中2	中3	中学全体	昨年度よりの増減
①よくあてはまる	32.8	19.2	14.3	21.2	-5.4 (26.6)
②ややあてはまる	51.7	46.6	57.1	51.9	-5.2 (57.1)

③あまり当てはまらない	10.3	27.4	26.0	22.1	+7.1 (15.0)
④全くあてはまらない	5.2	6.8	6.5	4.8	+3.5 (1.3)

上記の表より①+②の好感度指数は、73.1%で2014年度より-10.6%である。
アンケートの全設問中、生徒好感度指数の最も大きなマイナスポイントとなった。
数値だけ見ると、とても大きなマイナスであるが、中学生の7割が概ね国語の授業は理解していることになる。ならば昨年より下がった原因は何かと言うと、特定は難しいが、学年によっては、1年の間に数度、国語の担当教員が代わるということがあり、生徒に戸惑いがあったことは事実である。

また授業時間確保の為、コースによっては、朝読書の時間が削られている。

スクールミニマムは「読書できる子」とあるが、読書の時間が定着していないのではないだろうか。

全ての教科理解の原点は、国語である。学年により教え方にバラつきがあるかどうか、教員の教え方に問題があるかどうか課題として捉えて頂きたい。

(2) プラスポイントについて 表中の()内の数字は2014年度の%である。

設問2 礼拝は大切な時間だと思う。

	中1	中2	中3	中学全体	昨年度よりの増減
①よくあてはまる	22.4	27.4	32.5	27.9	-1.6 (29.5)
②ややあてはまる	53.4	38.4	51.9	47.6	+8.4 (39.2)
③あまり当てはまらない	20.7	21.9	13.0	18.3	-4.5 (22.8)
④全くあてはまらない	1.7	12.3	2.6	6.3	-2.1 (8.4)

上記の表より①+②の好感度指数は、75.5%で2014年度より+6.8%である。

礼拝の時間は、教員自身が大切な時間と捉えており(教員アンケート結果より100%肯定的である)、おのずと生徒も礼拝の時間は、大切な時間と捉えている。また以前より取り組んでいる生徒主体による礼拝、そして一般教員による礼拝がより身近なものとして心に響いている。

朝の礼拝で心静かに落ち着いてから、学校生活が始まるという事は、とても大切なことと捉えている結果だと思われる。礼拝が生徒一人ひとりを大きな成長に導き、社会に出ても「愛と奉仕」の精神を忘れずに活躍することを望んでいる。

設問19 信頼できる先生がいる。

	中1	中2	中3	中学全体	昨年度よりの増減
①よくあてはまる	34.5	11.1	23.4	22.2	+3.5 (18.7)
②ややあてはまる	32.8	29.2	37.7	33.3	+5.6 (27.7)

③あまり当てはまらない	22.4	30.6	20.8	24.6	-9.4 (34.0)
④全く当てはまらない	10.3	29.2	18.2	19.8	+0.2 (19.6)

上記の表より①+②の好感度指数は、55.5%で2014年度より+9.1%である。

設問19に関しては、②と③の入れ替えで好感度が上がっている。特に「あまり当てはまらない」としていた生徒が、「やや当てはまる」に変わったことで数値があがっている。信頼できる先生がいると思う生徒が増えた結果である。

「全く当てはまらない」とする生徒が微増していることは気にかかる数値である。

設問20 先生はいろんな相談に応じてくれる。

	中1	中2	中3	中学全体	昨年度よりの増減
①よく当てはまる	34.5	19.2	23.7	25.1	+2.5 (22.6)
②やや当てはまる	43.1	28.8	51.3	41.1	+5.5 (35.5)
③あまり当てはまらない	15.5	35.6	18.4	23.7	-2.8 (26.5)
④全く当てはまらない	6.9	16.4	6.6	10.1	-5.3 (15.4)

上記の表より①+②の好感度指数は、66.2%で2014年度より+8.1%である。

設問20に関しては、「全く当てはまらない」とした生徒が「やや当てはまる」に移行し、好感度の数値があがっている。

「全く当てはまらない」とした生徒が大きく減ったことは、素晴らしい。

設問21 学習についてわからないことがあるときは、先生に質問や相談をしようと思う。

	中1	中2	中3	中学全体	昨年度よりの増減
①よく当てはまる	36.2	9.6	27.3	23.6	+ 3.7 (19.9)
②やや当てはまる	43.1	41.1	48.1	44.2	+18.8 (25.4)
③あまり当てはまらない	19.0	31.5	18.2	23.1	-15.5 (38.6)
④全く当てはまらない	1.7	17.8	6.5	9.1	- 7.0 (16.1)

上記の表より①+②の好感度指数は、67.9%で2014年度より+22.5%である。

設問21に関しては、「やや当てはまる」が激増し、「あまり当てはまらない」が激減して結果として、好感度が+22.5%となっている。

これら好感度があがった原因は何であろうか。

カギは教員アンケート結果にあった。

教員アンケート

設問5 生徒から信頼が得られるよう努力している

設問9 自治会活動を通じて生徒が主体的、自立的に活動できるよう支援している。

- 設問 10 クラブ活動を通して、生徒が主体的、自立的に活動できるよう支援している。
 設問 12 生徒の成績や進路については十分な個別指導を行っている
 設問 13 生徒の個々の学力を配慮して、補習や面談など必要な学習指導を実施している。

これらの設問に対して、中学教員の③+④（課題的評価）は、0%であった。
 先生方は、きめ細かく生徒に目を配り、日々教育を行っていることが良くわかる。
 これらの点から生徒は先生に対する信頼度が大きくあがったと思われる。
 また、PDCA の資料より読み取れるのは、大きく変化させた教育プログラムも好感度を上げている要因である。例としては体育祭があげられる。
 また、P（計画）と D（実行）だけでなく、C（評価）そして A（改善）がきっちりと行われていることも要因である。

設問 3 1 学校は、生徒や保護者に関する個人情報を守っている。

	中 1	中 2	中 3	中学全体	昨年度よりの増減
①よくあてはまる	72.4	32.9	29.9	42.8	+17.9 (24.9)
②ややあてはまる	19.0	43.8	55.8	41.3	+ 2.5 (38.8)
③あまり当てはまらない	6.9	16.4	10.4	11.5	- 9.2 (20.7)
④全くあてはまらない	1.7	6.8	3.9	4.3	-11.3 (15.6)

上記の表より①+②の好感度指数は、84.1%で2014年度より+20.4%である。
 個人情報に関しては、生徒、保護者がどの部分を個人情報として捉えているかで結果は変わってくると思われる。かつて、個人情報の入った USB 紛失事件が起こり、その後、情報管理方法に関しては、学校が大きく見直した。しかし、学校がいくら個人情報の保護に神経を使っても、生徒達が現在の SNS 社会で自分自身をどう守っていくかが問題である。
 今年度は、好感度指数が上がったが、教員が試験の答案用紙を返す際に、点数が見える面を見せて、列の前から配ったり、うっかり進学希望校を他の生徒の前で話してしまったりと言う事例も聞かれる。少しの無神経さが、信頼を失うことになりかねない。思春期の子ども達の心を大切に指導に当たっていただきたい。

IV 評価のまとめ

今年度は、生徒達の結果を中心に、プラス（+）評価とマイナス（-）評価に注目することで、今何が問題なのかを洗い出そうとした。大きく数字を伸ばしたのは、先生への信頼度である。現在中学では、生徒数が3学年合わせて188名で、高校の1学年の生徒数より少ない。

これがきめ細やかな指導が出来ている最大の理由であろう。生徒ひとりひとりを大切にする教育が行われていて、保護者も信頼を寄せている。

また、先生方が一丸となって生徒達に真剣に向き合って下さる姿勢も信頼度を大きく伸

ばした要因と思われる。

思春期にある生徒達は、時には扱いに戸惑われることもあると察するが、どのような思いをもって日々生徒ひとりひとりに接してくださっているのか、是非伺ってみたい。

また、結果として好感度はあがっているが、「至れり尽くせり」の教育が、生徒の自立には大きく結びつかず、先生離れが上手にできず、結果大学進学実績に結び付いていないように思う。

先生方のきめ細やかなご指導の賜物の結果であるが、この点が課題と思われる。

同じように、宗教教育による人間形成と進学・進路実績とのバランスはとても難しい事であるが、どちらかに偏ることなく子ども達を教育して欲しいと願う。

V 評価委員からの提案

今年度の評価を終えて、評価委員より提案を以下にまとめたので参考にして頂きたい。

- ・正確な数字を得るために、設問によっては対象学年をしぼる。
- ・入学者数確保のために、様々な取り組みを行う。

例：卒業生を年代別にプロジェクトチームを作り、「自分の娘、孫を入学させたい

プール学院とは、どんな学校か。」というテーマで案を出して頂き、参考にする。

- ・保護者アンケートの回収率アップ

例：①プール学院ホームページから回答が出来るようにする。

②個人懇談会の待ち時間を利用して回答をして頂く。

- ・先生方からアンケートの設問にして欲しい項目があれば取り上げる。
- ・評価報告の開示方法について

この結果を、広く活用して頂き、誰もが身近に閲覧できるようにして欲しい。

また日頃、熱心にご指導頂いている教員の皆様にもお目通し頂き今後に活かして下さい幸いです。

生徒数が少ない今こそ、これを最大の武器と考え、生徒一人ひとりを大切に育て、探究できる女性にして社会に送り出して頂きたいと願っている。社会は女性の活躍を大きく望んでいる。女子校だからこそ、出来る教育を見出してそれを前面に打ち出して頂きたい。

評価委員一同、新たなプログラムが少しずつ実ってきていることを感じており、大いに評価し応援している。

委員一同